

新興国レポート

# 6月インドCPI上昇率は前月と同率で高止まり

## RBI（インド準備銀行）の政策目標の上限6%を2カ月連続で上回る

- ▶ 6月のインドCPI（消費者物価指数）上昇率は前年同月比+6.3%。前月と同率で、高止まり。
- ▶ 新型コロナウイルス感染が落ち着き、経済活動の正常化が進めば、CPI上昇率は今後低下傾向に。
- ▶ インフレ懸念が後退し、インドルピーは対円で回復傾向に、10年国債金利は低下（価格上昇）基調になるものと予想する。

### (1) 6月インドCPI上昇率は前月と同率

- インド統計局が7月13日発表した2021年6月のCPI上昇率は前年同月比+6.3%と、5月と同率でした。RBIの政策目標（2~6%）の上限を2カ月連続で上回りました（図表1）。CPIから変動の大きい飲食料品や燃料を除いたコアCPIは同+6.2%と、5月の同+6.4%から低下しました（図表1）。
- 項目別では、CPI全体の約5割を占める飲食料品価格の上昇率が、都市封鎖の影響等により同+5.6%と、5月の同+5.2%から、また、国内消費の約8割を輸入に頼る原油価格の高騰により光熱費が同+12.7%と、5月の同+11.9%から拡大しました。一方、住宅・家賃は同+3.7%、運輸・通信費は同+11.6%と、それぞれ5月の同+3.9%、同+12.4%から減速しました。

### (2) CPI上昇率は今後低下傾向に

- 新型コロナウイルス感染の落ち着き（図表2）を受け、インドでは6月14日以降、デリー首都圏等複数の州が移動規制等の緩和を進めています。経済活動の正常化が進めば、食料品生産の回復や物流網の改善をもたらし、供給面からの物価上昇圧力が後退するものと思われます。飲食料品価格の落ち着きを背景に、今後のCPI上昇率はRBIの政策目標の上限を下回る水準に低下するものと考えています。

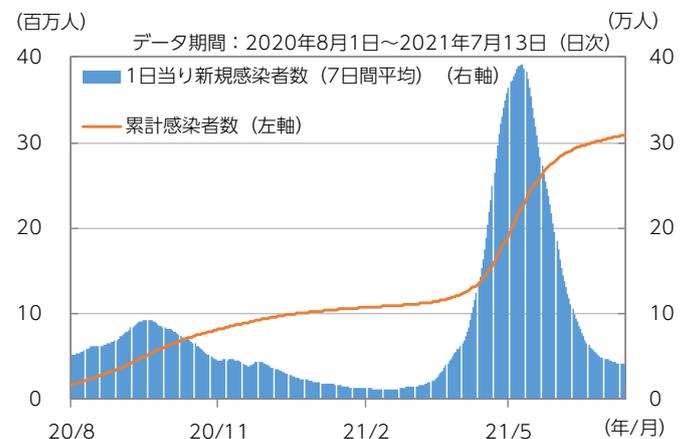
### (3) インドルピー及び10年国債金利の動向と見通し

- 感染急拡大に伴う都市封鎖や急加速した5月のCPI上昇率などが嫌気され、インドルピーは対円で5月下旬以降下落傾向（円高・インドルピー安）、また、一時6%を下回っていた10年国債金利は5月中旬頃を境に上昇傾向（価格下落）となっています（7月14日時点）（図表3）。
- 今後、経済活動の正常化が進めばCPI上昇率が低下し、インフレ懸念が後退すること等が予想されます。インドルピーは対円で回復傾向入りし、10年国債金利は再び6%割れをうかがう動きになるものと思われます。

図表1：インドCPIの推移



図表2：インドの新型コロナウイルス感染状況



図表3：インドルピーと10年国債金利の動向



出所) 図表1~3はCEIC、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>